

ウクライナ戦争の影響…旧ソ連地域を中心に

慶應義塾大学総合政策学部教授
廣瀬陽子



- *誤算の連鎖が生まれた背景
- *ロシアから距離を置きたしたCSTO諸国
- *ナゴルノ・カラバフを巡る歴史の経緯
- *ナゴルノ・カラバフ戦争の実態
- *隣接する大国・イランの思惑
- *会見したアゼルバイジャン大統領の主張
- *ダブルスタンダードのアメリカ
- *CSTOからの脱退もあるアルメニア
- *プーチン無き後もウクライナ戦争は続く
- *プリゴジンの叛乱をどう考えるか

山縣 それでは開会いたします。（拍手）

皆さんご承知のように廣瀬先生は慶應義塾大学総合政策学部の教授をなさっていますけれども、ウクライナの戦争が始まってからはたいへんお忙しい状態になっておられます、今日はその間を縫って当会の講師としてお越しいただきました。どうもありがとうございます。

先生は『ハイブリッド戦争』という本を講談社現代新書でお書きになっていて、この本自身は私が持っているもので見ますと、初めの第1刷りが2021年2月になっております。ただ、これを読ませていただくと、今の状況を考えるに当たって何の古さもなく、今話題のプリゴジンさんについてもたくさんページを割いて細かく書いていらっしゃるって、この本はまさに現

代を読み解くうえで非常に参考になる本だと思います。皆さんもう読んでいらっしゃると思いますけれども。

前回もプリゴジンさんのお話をいただきましたけれども、今日はもう一歩先へ進んで、先生が最近ご経験になったり、考えておられる知見を新たにまたご発表いただいたこうと思っています。前置きが長くなりましたけれども、どうぞよろしく願います。

誤算の連鎖が生まれた背景

廣瀬 こんにちは。（拍手）慶應義塾大学の廣瀬と申します。よろしくお願いたします。本日またお招きいただきまして、まことにありがとうございます。去年もこちらでお話をさ